

## イネ縞葉枯病の発生に注意

ヒメトビウンカの水田への侵入が早いため、  
防除適期を逃さないようにしましょう！

[現在の発生状況]

- ① 6月上旬に、県西地域および県南地域の小麦圃場で採取したヒメトビウンカ第一世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス（以下RSV）の保毒状況を調査したところ、結城市結城、筑西市二木成、桜川市真壁町原方においては昨年に引き続き高い保毒虫率であった（表1）。また、県西地域の水田に設置した黄色粘着トラップに誘殺されたヒメトビウンカ成虫のRSV保毒状況を調査したところ、5地点中4地点で10%以上の高い保毒虫率であった（農業研究所調査、データ省略）。
- ② 6月中旬現在、水戸市の水田に設置した黄色水盤へのヒメトビウンカの誘殺は平年より早い（表2）。

表1 ヒメトビウンカ第一世代幼虫のRSV保毒虫率

調査地点		保毒虫率 (%) <sup>1)</sup>			
		平成24年	平成25年	平成26年	平成27年 <sup>2)</sup>
結城市	結城	1.4	11.5	14.6	8.5
下妻市	高道祖	—	—	—	2.7
筑西市	二木成	26.0	6.7	16.8	8.5
桜川市	加茂部	—	—	11.9	1.1
	真壁町原方	—	—	11.1	6.3
つくば市	上菅間	—	—	—	3.2

1)平成24～26年：ラテックス凝集反応法により調査  
平成27年：簡易エライザ法により調査

2)検定日：平成27年6月12日

サンプル数：結城市47頭、下妻市71頭、筑西市47頭、桜川市95頭(2地点ともに)、つくば市95頭

※—：未調査

表2 水田に設置した黄色水盤でのヒメトビウンカ成虫の誘殺状況

時期		成虫数 (頭) <sup>1)</sup>	
		本年	平年値 <sup>2)</sup>
5月	第5半旬 <sup>3)</sup>	0	0.2
	第6半旬	2	0.0
6月	第1半旬	4	0.0
	第2半旬	3	0.0
	第3半旬	1	1.3
	第4半旬	—	0.5
	第5半旬	—	1.3
	第6半旬	—	0.7

1)黄色水盤2盤の合計

2)平年値：過去10年（平成17～26年）の平均値

3)半旬：各月を1日から5日ごとに区切った期間

月によって第6半旬は5日間または6日間となる

[病害の特徴]

- ① RSVはヒメトビウンカにより媒介される。麦畑で増加したヒメトビウンカは水田に移動するため、周辺に麦畑がある水田では特に本病が発生しやすい。
- ② 田植えが遅い水田は生育初期に本病に感染するため、被害が大きくなる傾向がある。  
(その他、ヒメトビウンカの生態等については、平成27年3月25日発表 病害虫発生予察注意報第4号を参照)

[防除対策]

- ① 昨年、本病の発生が認められた地域でウンカ類に登録のある薬剤で育苗箱施薬を行わなかった水田では、表3を参考にヒメトビウンカの防除を行う。本年はヒメトビウンカ成虫の水田への飛来が早いと見られるため、防除時期の目安は6月下旬第5半旬とする。なお、粒剤を施用する場合は、薬剤の効果が現れるまでに時間を要するため、早めに散布する。

表3 稲のヒメトビウンカに登録のある主な薬剤 (平成27年6月10日現在)

薬剤名	使用量(10a当たり) または希釈倍数	剤の 使用回数	有効成分名 (有効成分の総使用回数)	系統名	IRAC コード※
アドマイヤー1粒剤	3kg	2回以内	イタダクプロリト <sup>®</sup> (3回以内) <sup>1)</sup>	ネオコチノイト <sup>®</sup>	4A
アドマイヤー水和剤	2,000倍	2回以内			
ダントツ粒剤	3kg	3回以内	クロチアジソン(4回以内) <sup>2)</sup>		
ダントツ水溶剤	4,000倍	3回以内			
スミチオン乳剤	1,000倍	2回以内	MEP (3回以内) <sup>3)</sup>	有機リン	1B
MR. ジョーカーEW	2,000倍	2回以内	ジフルオフェン(2回以内)	ピレスロイト <sup>®</sup>	3A

※殺虫剤抵抗性対策委員会(IRAC)により、殺虫剤の有効成分を作用機構により分類し、コード化したもの。  
系統名より細かく分類されている。

1) 種もみへの処理又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内

2) 移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内

3) 種もみへの処理は1回以内、育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内

注1) 農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載されている使用方法、注意事項を必ず確認のうえ使用する。

注2) 表中の記載は、使用方法「散布」の登録内容である。育苗箱施薬を行った場合、有人ヘリ防除または無人ヘリ防除を行う予定がある場合は、本剤の使用回数ならびに有効成分の総使用回数に十分注意する。